

禅道場で耳順の精神学ぶ

①

入社から33年間、「正面から物事を見るな。裏や斜めから眺めて考えろ」という先輩の教えを実践してきた。確かに記者の仕事には役立った。だが耳順の年(論語にいう「耳順へしたがう」の60歳)も近い。周囲の言葉を素直に聞けるようになりたい。

きっかけを求め、京都府長岡京市にある長岡禅塾の門をたたいた。「塾生と同じ修行をします。体験入塾をさせていただきます」。現塾長の北野大雲老師にお願いした。気温35度の猛暑日、8月23日のことである。

長岡禅塾は大学生を対象にした禅道場だ。塾生は個室を与えられ、大学に通いながら禅を実践する。部屋はエアコンと布団つきで、無線LAN「WiFi i(ワイファイ)」もつながる。塾にゆかりの企業・団体からの寄付金で運営されており、寮費は不要だ。

学・験・体

1泊2日では短いと見え、2泊3日の修行をお願いした。北野老師から許可は下りた。ただ、塾を支える企業・団体の承認も必要だ。

この日、体験入塾の日程は決まらなかったが、宿題が出た。「家で座禅を組む練習をしておくように」

インターネットで調べて、右の足を左の太ももの上に乗せ、



北野大雲老師から説明を受ける筆者(京都府長岡京市)

り。本番が心配だ。禅塾のホームページで必要な持ち物を確認した。着物、袴(はかま)、帯、たすき、襦袢(じゆばん)、白足袋、ゲタとある。これは旅館の浴衣のみ。何一つ持っていない。

60歳目前「素直な心持ちたい」

まず家で座禅練習 苦しい!

次に左の足を右の太ももの上に乗せる結跏趺坐(けっかふざ)を試した。我がふくらはぎはスキーブーツのバックルを締めるのに苦労するほど太い。無理だ。左の足を右の太ももの上に乗せるだけの半跏趺坐(はんかふざ)に切り替えた。何とか組めるが、すぐにほどけるトホホな仕上が

近所の着物リサイクルショップを訪ねた。一式必要と分かる。店のおば様たちがヒートアップ。「着物は緑系で帯はこれ、袴はこれ」と世話を焼かれ、あっという間に買い物は完了。安い。男物の着物は需要が少ないせいだろうか。甘えついでおは様たちに

「帯の結び方を教えて」と言うと、「貝の口」という結び方を図解した紙を渡され、「あとはネットで」。動画サイトのYouTubeを見ながら家で2時間、特訓し、クリップを使えば何とか結べるようになった。ゲタを買い損ねた。近所の店を回っても無い。全長2・7キロで国内最長のアーケードを誇る天神橋筋商店街(大阪市北区)ならあるかも。最初に飛び込んだ和装小物店で雪駄(せった)を見つけて購入。禅塾には雪駄も並んでいた。ゲタじゃないけど許してくださいと信じて。

体験入塾の日が決まった。10月17日午後、私は長岡禅塾の立派な門柱の前に立っていた。(この連載は竹田忍(57)が担当します)

京都府長岡京市はタケノコの名産地。子供のころ、家族でタケノコ掘りに行き、私は30センチ級の大物を収穫した。

私は…